

旭化成ホームズ「環境・社会報告書 2017」を発行

旭化成ホームズ株式会社(本社:東京都 新宿区、代表取締役社長:川畑 文俊)は、当社および関連会社の 2016 年度の環境保全活動と一部の社会活動についてまとめた「環境・社会報告書 2017」を発行しました。

今回の報告書では、ロングライフ住宅の提供を通して持続可能な社会の実現に積極的に貢献するため、2016 年度に実施した環境・社会活動を報告しています。特集面では、2007 年から静岡県富士市にてモニタリングを続け、10 周年を迎える「あさひ・いのちの森」の軌跡と、その知見を活かした外構・植栽提案『まちもり』を紹介しています。さらに近年重要度を増しつつある、企業のガバナンス体制や、戸建て住宅のZEH化・IoT化、サプライチェーンへの関わりなどについて、より踏み込んだ報告内容となっています。



I 報告対象期間

2016 年度(2016 年 4 月～2017 年 3 月/定性的な情報については 2017 年 4 月～9 月までの情報も一部掲載)

II 報告対象範囲

旭化成ホームズと関連会社、及び主要な材料調達先(旭化成建材)

III 旭化成ホームズ環境方針

「ロングライフ住宅から未来世代へ貢献します」

1. サステナブルな都市の住まいの実現

省エネルギー性能を高め、より環境に貢献する住まいの提供と企業活動を目指します。

2. 環境を活かした快適な都市の暮らしの提供

自然を住まいに取り入れることや、新たな家族の暮らし方の提案で、快適な暮らしの実現を目指します。

3. 環境・社会との調和

地球環境を守るための活動を積極的に行うと共に、社内及び社会に対して環境保護の重要性を啓発し、環境保全活動の輪を広げます。

IV 報告書の主な内容

■特集 1. 10 周年を迎えた「あさひ・いのちの森」

旭化成富士支社の 1 角となる約 10,000 m²の工場跡地で 2007 年よりモニタリングをつづけてきた環境再生ゾーン「あさひ・いのちの森」が 10 周年を迎えるにあたり、森の成長の様子と、管理とモニタリングの過程で得た知見、そして今後の課題などについて紹介。



「あさひ・いのちの森」

■特集 2.～都市に緑のネットワークを～ わが家の小さな緑『まちもり』

「あさひ・いのちの森」の10年にわたるモニタリングから得た知見と、これまで培ってきた効率的な設計手法をミックスすることで策定した、都市のコンパクトな敷地で多様な生物を呼び込む外構植栽の設計指針『まちもり』を紹介。



『まちもり』

■その他取組みの主なトピックス(抜粋)

1.旭化成ホームズのコーポレートガバナンス体制を明示

事業環境の変化に応じ、透明・公正かつ迅速・果敢に意思決定を行うために最適なコーポレートガバナンスの有り方を継続的に追及する旭化成グループの考え方に即し、旭化成ホームズのコーポレートガバナンス体制図を明示。

2.戸建住宅のZEH化促進を目指し、新断熱躯体を採用

国による住宅のゼロエネルギー化（ZEH化）推進を受け、2016年度よりZEHビルダー登録制度へ参加し、2020年度までのZEH普及目標値を公開。2017年5月にはZEHの外皮基準をクリアする断熱躯体（ヘーベルシェルターダブル断熱構法）を開発。

3.ガスコージェネレーションシステムの導入で工場におけるCO₂低減を促進

旭化成住工滋賀工場において、電力のピークカットを目的としたガスコージェネレーションを採用。

4.光回線事業「ヘーベル光」と独自のHEMS「HEBEL HEMS」で住まいのIoT化を推進

昨年よりヘーベルハウスにお住まいのお客様向けの光回線サービス「ヘーベル光」の提供を開始。さらに独自のニーズを反映したHEMS「HEBEL HEMS」の提供も開始することで、住まいのIoT化を推進し、省エネ・使い勝手共に向上。

5.サプライチェーンと共に顧客満足向上を図るCS大会を開催

主要な設備メーカーなどと共同でお客様満足向上を図る目的でCS大会を開催。顧客からの評価が高いメーカーへの表彰を行ったうえでその活動事例を発表。その後ディスカッションなどを通して、サプライチェーン各社とともにCS向上活動を実施

「環境・社会報告書 2017」は下記 URL から PDF 版をダウンロードできます。

<http://www.asahi-kasei.co.jp/j-koho/kankyo2017.pdf>

〒160-8345 東京都新宿区西新宿 1-24-1 エステック情報ビル

旭化成ホームズ株式会社 広報室

(電話)03-3344-7115 (FAX)03-3344-7050 (メール)j-koho@om.asahi-kasei.co.jp